

杜乃雲

令和三年水無月吉日発行
安来市伯太町西母里一三九
西八幡宮社務所
電話：〇八五四（三七）一一三〇
e-mail:hachimanguu@gmail.com

周囲の田に水が入り、蛙の声も一段と大きくなつて参りました。コロナ禍の中ではありますが、氏子・崇敬者の皆様におかれましては、益々御清祥の事と、お慶び申し上げます。

六月になりますと、母里地区では六月三十日夜に西八幡宮・鈴森稻荷神社で、大塚地区では七月十一日夜に両大神社で、「わくぐりさん」が行われます。

今年も特に『悪疫防護・疾病退散』の意図で、この「わくぐりさん」のご説明を致します。

『わくぐりさん』について

この『わくぐりさん』は、『ながしびな』や『たなばた』等と同じく、古くから伝わる日本年中行事の一つです。

正式には『水無月の大祓ひ』または『夏越しの大祓ひ』と云います。古く平安時代には、宮中でも行われた歴史のある神事でもあり、また茅で作った輪をくぐることから『茅の輪神事』とも云われ、全国の神社で行われています。

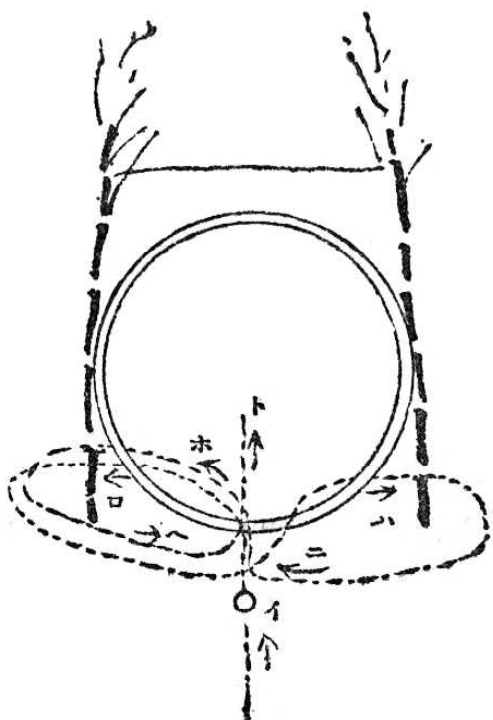
やり方は、まず人型（紙人形）に自分の名前を書いてから、息を吹きかけて形代とし、からだ全体をしっかりと撫でさすることで、自分の体の中にある穢（けがれ）を人型に全て移し、それを持って神社に行き「茅の輪」をくぐって、無病息災や家内安全のお参りをします。ちょうど年に一回、体の中の大掃除をして、一年間の除災を祈るお祓いの祭りです。

茅の輪をくぐるときや体をさすときに唱える和歌がありますので、紹介を致しましょう。

壺の歌 思ふ事皆つきねとて 麻の葉を

式の歌 みな月の 夏越しの祓ひする人は 祓ひつるかな

参の歌 宮川の 清き流れに 袂せば 祈れる事の叶わぬはなし



古来は、図のように左・右・左と三回輪をくぐりながら唱えたと書物にありますが、現在では、くぐってから神前で唱えたりします。此の時くぐる『茅の輪』は、毎年古式にのっとり、苙などを使わずに茅のみで作っております。皆様にご参加いただければ、幸甚です。

浦安乃舞について

浦安の舞（うらやすのまい）は、1940年（昭和15年）11月10日に開かれる「皇紀二千六百年奉祝会」に合わせ、全国の神社で奉祝臨時祭を行うに当たり、祭典中に奉奏する神楽舞を新たに作ることが立案され、当時の宮内省楽部の楽長である多忠朝が国風歌舞や全国神社に伝わる神楽舞を下地に作曲作舞した神前神楽舞でした。ちなみに、この時作られた神楽舞は、巫女舞である浦安の舞と、宮司舞である悠久の舞の二種類があり、現在でも全国神社で舞継がれています。

神楽の歌詞は、1933年（昭和8年）の昭和天皇御製で、

天地（あめつち）の

神にぞ祈る朝なぎの

海のごとくに 波たたぬ世を

となっています。これを、龍笛（りゅうてき）

・笙（しょう）・箏（しちりき）・鞆鼓（かっこ）・楽太鼓（がくだいこ）などの楽器で演奏されます。

舞名の元とな

る「浦安」とは、

「うら」は心を

指す古語であ

り、「うらやす」

で心中の平穏を

表す語であると

され、『日本書紀』に日本国の別称として「浦安国」とあることから、神祇の安寧慰撫と国の平穏無事が、「浦安」の語に込められています。



浦安の舞は舞姫（巫女）によって一人舞、二人舞、四人舞で舞われる女舞です。正式は四人舞で、舞には前半の扇舞（おほぎのまひ）と後半の鈴舞（すずのまひ）とがあります。装束はあこめ装束または本装束と呼ばれる単（ひとえ）・裃（あこめ）・小忌衣（おみごろも）・裳（も）・緋袴（ひばかま）を着て、扇舞では檜扇（ひおうぎ）を、鈴舞では鉾鈴（ほこすず）を持ちますが、現在は略装の、千早（ちはや）と緋袴を使い、扇も和紙製の舞扇に檜扇と同様の飾り紐を付けたものを、鈴も神楽鈴を代用してもよいこととなっています。これは、合織の略装束や和紙製舞扇は、比較的軽量で年少者が舞う場合に適していたことや、巫女の神前奉仕装束として千早が常用された歴史に依るようです。

この浦安の舞につきましては、皇紀二千六百年奉祝臨時祭に合わせて奉奏するために、日本全国で講習会が開かれました。地区の代表として当社宮司宮廻秀克を始め三名が、この講習を受け能義郡に持ち帰っています。その後、昭和四〇年代には、能義郡・安来市の各神社で小学生女子による浦安の舞奉納が盛んになり。氏子の皆様にも、当時の体験記憶がお有りの方が多くかと存じます。

現在、能義郡では子供達による奉納が難しくなり無くなってしまいましたが、安来市では毎年八月に合同講習会を行い、秋祭りに各神社神前にて浦安の舞奉納が続いています。個人的には復活を心より期待しております。

「杜乃雫」^{もりのしずく}は、明治～大正初めの頃に、八幡宮より発行してありました社報のタイトルで、この度、不定期刊行ながら復刊致しました。氏子の皆様とのコミュニケーションの一助となれば幸甚でございます。